

Area introduction

開館時間・休館日は変更になる可能性があります。公式HPでご確認ください。
ここに掲載されている作品画像は、実際に展示されるものと異なる場合があります。



maaf.jp



会期 | 2026年11月3日[火・祝]～12月13日[日]

主催 | マツモト建築芸術実行委員会 委員長・齊藤忠政(扉ホールディングス株式会社代表)
総合ディレクター:おうちおさむ(有限会社ナノノグラフィックス代表)

共催 | 東アジア文化都市2026松本市実行委員会

特別協賛 | 扉ホールディングス株式会社 協賛 | 信濃毎日新聞

1

Artist

チームラボ
teamLab

国登録有形文化財 松本市近代遺産
割烹 松本館

松本市丸の内7-39 10:00-17:00
※営業のため入館できない日時があります。
公式HPでご確認ください。

建築紹介:明治23(1890)年創業の老舗料亭。目黒雅叙園に感銘を受けた2代目当主が、松本でも賓客をもてなすため昭和10(1935)年頃に建設。絢爛豪華な大広間・異国情緒あふれる手洗所など格調高い空間となっている。



United, Fragmented, Repeated and Impermanent World 2013
Interactive Digital Work, Endless, 8 channels, Sound:Hideaki Takahashi
Takahashi Ryuzen Collection. © teamLab

アーティスト略歴:アートコレクティブ。2001年から活動を開始。アート、サイエンス、テクノロジー、そして自然界の交差点を模索している国際的な学際的集団。アーティスト、プログラマー、エンジニア、CGアニメーター、数学者、建築家など、様々な分野のスペシャリストから構成されている。

2

Artist

マイケル・リキオ・ミング・ヒー・ホー
Michael Rikio Ming Hee Ho

下町会館
松本市大手4丁目8-11 10:00-17:00

建築紹介:昭和3(1928)年、茶屋として建設された木造3階建ての看板建築。老朽化により再生工事を行い、平成7(1995)年にまづりの拠点施設としてリニューアルした。建物正面は当時のまま残されており、土土通りの味わいを深めている。



TIME TO SHINE, 2023 Drywall, acrylics on wooden panel Overall:170.0 × 255.0 cm (Triptych)
Each panel: 170.0 × 85.0 cm Photo credit: Osamu Sakamoto
©Michael Rikio Ming Hee Ho. Courtesy of the artist and KOTARO NUKAGA

アーティスト略歴:1996年ハワイ生まれ、東京を拠点に活動するアーティスト。言語と意味の揺らぎを軸に、テキスト、錯視、シェイプド・ペインティングを用いて、文化的帰属や記憶を考察するコンセプチュアル・アーティスト。

3

Artist

村松英俊
Hidetoshi Muramatsu

国登録有形文化財 松本市近代遺産
ヒカリヤ文庫蔵

松本市大手4丁目7-14 10:00-17:00
※営業のため入館できない日時があります。
公式HPでご確認ください。

建築紹介:明治19(1886)年に大商家の平林家が建てた文庫蔵。明治21(1888)年の大火で焼け残り、蔵の中には当初からとされる金庫が残る。外壁の黄土色は、戦時中に空襲を避けるための迷彩とされる。



© Hidetoshi Muramatsu

アーティスト略歴:1988年、静岡県生まれ。2016年東北芸術工科大学大学院彫刻領域修士。モノや道具など既製品の一部分を大理石などの石に置き換え、モノの一部が石化した、あるいは石がモノの形に物化したイメージの作品を制作する。

4

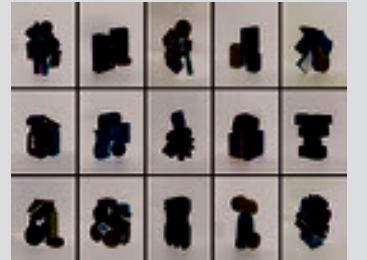
Artist

鈴木崇
Takashi Suzuki

国登録有形文化財 松本市近代遺産
かわかみ建築設計室

松本市大手5丁目1-3 10:00-17:00

建築紹介:大正14(1925)年、医院併用住宅として建てられた木造2階建ての看板建築。4面とも洋風に仕上げ、縦ラインの上げ下げ窓や花と幾何学模様のステンドグラスが、アール・ヌーヴォーを感じさせる。



© Takashi Suzuki

アーティスト略歴:京都府出身。1996年、アメリカのThe Art Institute of Boston写真実学科を卒業。2001年から2002年まで、ドイツのデュッセルドルフ芸術アカデミーにてThomas Ruffクラス研究生の傍ら、Thomas Struthのアシスタントを務めた。2027年2月11日まで、和歌山県立近代美術館にて個展「もののかし」を開催中。

5

Artist

シシヤマザキ
Shishi Yamazaki

長野県宝
旧念来寺鐘楼

松本市中央4丁目9-13 妙勝寺 10:00-17:00

建築紹介:宝永2(1705)年築の総檜造の鐘楼。廃仏毀釈で明治5(1872)年に廃寺となり伽藍は壊されたが、鐘楼だけが残った。戦時中に供出された鐘と欄干の跡りは、令和2(2020)年の修理で復元された。



© Shishi Yamazaki

アーティスト略歴:水彩画風の手描きロトスコープアニメーションを独自の表現方法とする映像作家。2020年より益子町に移住し陶芸制作に勤しむ。NHK「虎に翼」のオープニング映像を手がけた。絵画やパフォーマンスなど多岐にわたる活躍中。

6

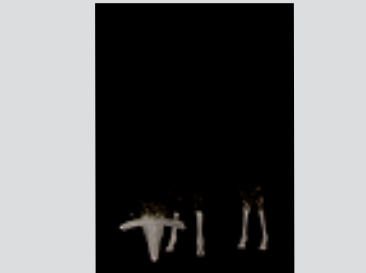
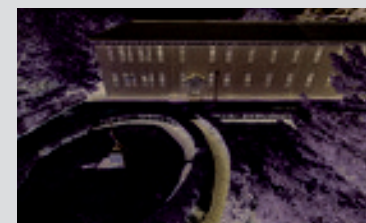
Artist

稲葉友宏
Tomohiro Inaba

重要文化財(本館・講堂)
旧松本高等学校庭園

松本市県3丁目1-1(あがたの森文化会館)

建築紹介:大正期に建てられた旧松本高等学校の本館と講堂は、薄青緑色の木造洋風建築で、ともに重要文化財。現在はあがたの森文化会館として、市民の学びや交流の場となっている。本館に面した中庭が今回の会場となる。



© Tomohiro Inaba

アーティスト略歴:1984年、栃木県生まれ。2011年、文星芸術大学博士課程後期課程修了。[大地の芸術祭2012](越後妻有)、新宿クリエイターズフェスタ2015、ポーランド・ウッチ市への作品設置(2019年)などをを経て、2026年には個展「Forms of Lives」(YUKIKO MIZUTANI, 東京)を開催。

7

Artist

ジュリアン・オピー
Julian Opie

まつもと市民芸術館
松本市深志3丁目10-1

8:30-18:30(日によって延長あり)
休館日:11/9(月)、24(火)、12/7(月)

建築紹介:長野県出身の建築家、伊東豊雄の設計で平成16(2004)年に建てられた劇場。約2万個のガラスを象嵌した壁面が、昼は外から、夜は館内から光をこぼす。今回は、大階段を上がった先にある「シアターパーク」が会場となる。



© Julian Opie "Susan Walker" 2023
Courtesy of MAHO KUBOTA GALLERY

アーティスト略歴:ロンドンを拠点に活動する現代美術家。人物や風景を簡潔な線と鮮やかな色彩で表し、「歩く人々」をはじめ、絵画、彫刻、映像など多様な表現を通して独自の視覚言語を展開し、世界各地で作品を発表している。

8

Artist

本城直季
Naoki Honjo

松本市立博物館
松本市大手3丁目2-21 9:00-17:00

休館日:11/17(火)

建築紹介:明治39(1906)年から続く博物館が、令和5(2023)年に三の丸へ移転オープンした。南面の外壁は、和紙を折ったような意匠で、夜のライトアップにより表情を変える。館内は、人々が集い、学ぶ場にもなっている。



© Naoki Honjo

アーティスト略歴:1978年東京都生まれ。東京工芸大学芸術学部写真実学科卒業後、同大学大学院メディアアート専攻修了。実在の都市や風景をまるでジオラマ模型のように写し出す作品で広く知られる。2006年、写真集『small planet』で木村伊兵衛写真賞を受賞。

9

Artist

佐藤雅晴
Masaharu Sato

旧油三洋裁店
松本市大手2丁目249-10 10:00-17:00

昭和のメインストリートだった旧六九商店街の長屋状の看板建築で、昭和初期から洋服の仕立をする洋裁店として営業していた。石張りを模した外壁など、同一棟でありながら隣の仏具店とは異なる洋風の意匠を凝らしている。



© Masaharu Sato. Courtesy of Inura art gallery

アーティスト略歴:佐藤雅晴(1973-2019)は大分県出身のアーティスト。自ら撮影した日常風景を丁寧にトレスするロトスコープ技法で独自の制作を続け、国内外で高い評価を得るなど、長年の闘病を経て2019年に逝去した。

10

Artist

原田裕規
Yuki Harada

旧高松屋商店
松本市大手2丁目4-36 10:00-17:00

建築紹介:食品卸業を営んでいた高松屋商店が、昭和36(1961)年に建設。昭和50年代に建物の一部を区切りショールウインドーのある貸店舗とした。正面タイル上の文字看板や袖壁の人工大理石など、随所に昭和の香りが漂う。



原田裕規「顔に見せる絵(馬辺の傍に)」2022年 展示風景(京都芸術センター)
撮影:松尾和也

アーティスト略歴:1989年生まれ。アーティスト、とるにたらない視覚文化をモチーフに、テクノロジーやパフォーマンスを用いて作品を制作している。近年は広島市現代美術館、長野県立美術館、日本ハワイ移民資料館などで個展を開催。本展では、長野県・諏訪湖で撮影した映像作品を展示する。

11

Artist

井村一登
Kazuto Inura

atelier m4 今町スタジオ
(旧森脇刃物店)

松本市大手2丁目4-1 10:00-17:00

建築紹介:旧六九商店街のアーケード入口の角に建つ3階建てのビル。隅切りの壁面が貸し看板となり、商店街の店の広告が並んだ。今も「森脇刃物店」の店名が残る。現在は、家具ブランドのatelier m4が借り受け、オフィスとして使用している。



© Kazuto Inura

アーティスト略歴:平成2(1990)年、京都生まれ。素材や技法を横断しながら、人と鏡の関係の変遷を追う。近年は「ナルキッソスの救済」をテーマに、自己愛、自家受粉、単為生殖をめぐる作品を制作している。

12

Artist

李禹煥
Lee Ufan

長野県宝
旧司祭館

松本市明智2丁目6-24 9:00-17:00
休館日:11/17(火)、12/1(火)、8(火)

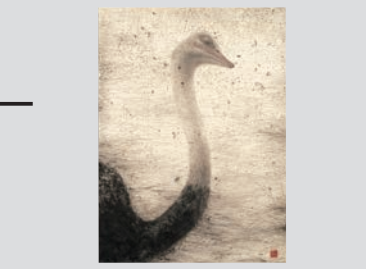
建築紹介:明治22(1889)年、フランス人クレマン神父の設計で、宣教師の住居として建てられた洋館。平成3(1991)年に移築された。全ての箇室に暖房を備え、県内に現存する最古の西洋館とされる。



13

Artist

福井江太郎
Kotaro Fukui



アーティスト略歴:1969年、東京生まれ。2003年、文化庁賞上優秀美術作品に選出。2006年と2013年に紺綬褒章受章。2013年、岡田美術館に巨大壁画を設置。2022年、十三代目市川團十郎白猿襲名披露で祝賀制作。文化庁他、公立美術館等に作品多数収蔵。

協力

有限会社アルプ
有限会社ナノノグラフィックス
アダチ版画研究所
imura art gallery
KEN NAKAHASHI
KOTARO NUKAGA

高橋龍太郎コレクション
MAHO KUBOTA GALLERY
Mizuma Art Gallery
rin art association
YUKIKO MIZUTANI

14

Artist

中島崇
Takashi Nakajima

松門文庫
松本市浅間温泉2丁目 10:00-17:00

建築紹介:別荘から土産物店、住宅、薬局へと使われ方を変えてきた長屋建ての建物。ファサードには、建てた私設図書館、国宝旧開智学校の流れをくむ擬洋風建築で、玄関ポーチの銅板うろこ葺きの屋根は珍しいとされる。



© Takashi Nakajima

アーティスト略歴:現代美術家。東京都出身、大田区在住。1994年美沢デザイン研究所卒業。2001年に渡独し、ベルリンで活動。2026年、下山芸術の森美術館所美術館で個展。大規模な空間作品を、屋内外、国内外を問わず発表している。

15

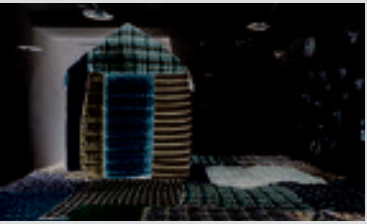
Artist

鬼頭健吾
Kengo Kito

旧浅間温泉芸苑組合
(田辺薬品2階)

松本市浅間温泉3丁目3-9 10:00-17:00

建築紹介:共同浴場の2階にあった芸妓の稽古場が手狭になり、建てられた検査。30畳の広間と奥行き深い舞台を備え、稽古のほか、地域向けの発表会も催された。現在はギャラリーが併設され、地域の人々が集う場となっている。



© Kengo Kito

アーティスト略歴:フラープやバラソなど、工業製品を空間に充満させることにより作品化したり、近年は布や鏡などを建物の構造や自然および人工の光といった日常のものと現代社会を軽やかに批評する作家として国内外から高い評価を受ける。

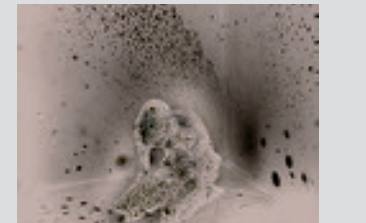
16

Artist

大垣美穂子
Mihoko Ogaki

旧吉沢土産店
松本市浅間温泉3丁目3番街区 10:00-17:00

建築紹介:別荘から土産物店、住宅、薬局へと使われ方を変えてきた長屋建ての建物。ファサードには、土産物店と薬局の看板の形跡が残る。2階には灰色の漆喰壁の座敷があり、地下室も備えるなど、費用をかけて造られたことがうかがえる。



大垣美穂子「Many Ways—Breath」2024年

アーティスト略歴:1973年富山県生まれ。アーティスト。愛知県立芸術大学卒業後、ドイツ・デュッセルドルフ・クンストアカデミーに留学・現地で活動。2010年に日本へ拠点を移し、人体と宇宙をめぐる壮大なインスタレーションを国内外で展開している。

17

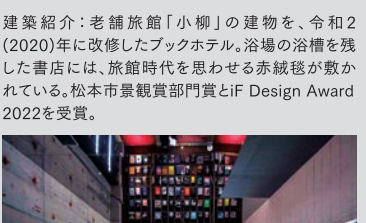
Artist

鬼頭健吾
Kengo Kito

松本本箱(松本十帖)

松本市浅間温泉3丁目13-1
12:00-17:00(最終入館16:00)
休館日:11/7(土)

時間予約制(無料)ご予約はこちら→



© Kengo Kito

建築紹介:老舗旅館「小柳」の建物を、令和2(2020)年に改修されたブッホホテル。浴場の浴槽を残した店舗には、旅館時代を思わせる赤絨毯が敷かれている。松本市景観景観部門賞とiF Design Award 2022を受賞。

18

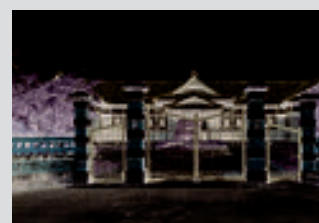
Artist

米谷健+ジュリア
Ken + Julia Yonetani

重要文化財
旧松本区裁判所庁舎

松本市大字島立2196-1(松本市歴史の里)
9:00-17:00(最終入館16:30)
休館日:火曜(祝日の場合は翌日)

建築紹介:明治41(1908)年に松本城二の丸御廊跡に建てられた裁判所庁舎。近代和風建築で、重要文化財に指定されている。市民の保存運動を経て、昭和57(1982)年に移築復元され、現在は松本市歴史の里にある。



《最後の晩餐》2014 画 900(長)×72(短)×122(高) cm
Photography by Catherine Brooks
©Ken + Julia Yonetani, Courtesy of the artists and Mizuma Art Gallery

アーティスト略歴:アーティストユニット。環境問題や社会問題などをテーマに入念リサーチを行い、独自の手法で美しくも不気味なものへと転換する作品は、インスタレーション、ビデオ、パフォーマンスなど多岐にわたる。近年は京都の農村で無農薬農業を営みながら、グローバルに制作・展示を行なっている。

19

Artist

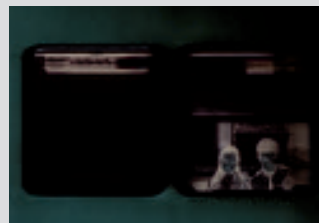
佐々木修宏
Nobuhito Sasaki

旧松本少年刑務所独居舎房

松本市大字島立2196-1(松本市歴史の里)

9:00-17:00(最終入館16:30)
休館日:火曜(祝日の場合は翌日)

建築紹介:昭和28(1953)年から平成2(1990)年まで使われた、松本少年刑務所の独居房棟の一部。創建当初の板張りや、昭和50年代に改善された畳敷きの部屋を復元している。平成6(1994)年に歴史の里へ移築された。



© Nobuhito Sasaki

アーティスト略歴:1976年広島県生まれ、大阪府在住。日本鉄道写真作家協会(JRPS)会員。幼い頃から鉄道が好きで日本中のローカル線を旅する。現在は広告代理店に勤務の傍ら、鉄道をモチーフに距離感や時間などをテーマに写真を発表。今回は駅のホームで通り過ぎていく列車の窓を流し撮りした「Passings」を展示する。